

臓器移植推進 協会だより

第30号

(発行者)

公益財団法人栃木県臓器移植推進協会
理事長 太田 照 男

(編集責任者)

企画委員長 村 山 直 樹

(事務局)

宇都宮市昭和1丁目3番10号
栃木県庁舎西別館4階
TEL 028-625-7350
FAX 028-625-7362

「巻 頭 言」



公益財団法人栃木県臓器移植推進協会
理事長 太田 照 男

臓器移植推進協会だより第30号（令和元年度版）の発刊にあたり、一言御挨拶を申し上げます。

関係者の皆様には日頃より当協会の事業運営に関しまして、格段の御指導御鞭撻を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、平成22年7月の「改正臓器移植法」の全面施行後、これまでに全国では、667例（令和元年12月末現在）の脳死下での臓器提供例が報告され、本県においても14件の脳死下での臓器提供と、3件の心停止後の提供があるなど、我が国における移植医療が着実に推進されつつあると考えております。

一方で、県内の腎臓移植希望者は昨年12月末現在で199名と依然として多くの方々が臓器移植を待ち望んでいる状況にあり、また、臓器提供の事例の大半は本人の書面での意思表示がなく、御家族が提供を承諾されたものであります。このようなことから、今後とも、県民への臓器移植制度の理解を深める普及啓発活動をより一層充実させる必要があると考えているところです。

当協会では、10月の臓器移植普及推進月間には県、医療機関、患者団体、ライオンズクラブなどのご協力をいただき、県内3箇所で恒例の街頭キャンペーンを展開したほか、移植医療を待つ患者さんに希望の光を届けるとともに臓器移植について考えるきっかけづくりとなるよう、

宇都宮タワーを臓器移植のシンボルカラーであるグリーン色でライトアップいたしました。

その他にも、マスメディアを利用した啓発活動や、臓器移植推進月間をPRするための懸垂幕の掲示、プロスポーツチームとのオリジナルティ豊かな共同企画を充実させるなど、県民各層の皆様にも、臓器移植に関する理解を深めていただくための各種事業を積極的に展開して参りました。

また、小・中学生や高校生などに移植医療を通じて命の尊さを学んでいただくための「命の学習会」事業では、実施した各学校のたくさんの児童、生徒、保護者の皆様から素晴らしい反響をいただいております。

このような各種普及啓発事業を通じて、徐々にではありますが臓器移植に対する理解が広がってきているものと思われまます。

当協会は、公益財団法人に移行して8年目を迎え、今後とも臓器移植の普及啓発活動の充実や、移植医療を円滑に実施するための事業を幅広く実施し、より公益性の高い法人として発展して参る所存であります。

結びに、医療機関をはじめとする関係機関、団体の皆様はもとより、県民の皆様には臓器移植の推進に向けて、更なる御理解と御支援を賜りますようお願いを申し上げ御挨拶とさせていただきます。

臓器移植推進会議（企画委員会）活動

委員長 村山 直樹（協会理事）

本会議は、臓器移植推進事業の一層の充実を図ることを目的に、平成27年度から従来の企画委員会を「栃木県臓器移植推進会議」として拡充し、今年度で第5回目の会議を開催いたしました。

栃木県臓器移植推進事業の現況や今後の取組について、各委員からの様々な意見をいただき、令和元年度事業の実施状況や令和2年度の事業計画案について、具体的な協議を行いました。

令和元年度の意思表示カード普及啓発事業では、恒例の「街頭キャンペーン」を県、県透析医会、腎友会、ライオンズクラブ等に御協力をいただき、県央（宇都宮市）・県北（那須塩原市）・県南（佐野市）の3地区で実施したほか、移植医療への理解と意思表示の普及啓発を目的に、県都のシンボルである宇都宮タワーをグリーン色でライトアップしたことが報告されました。

また、臓器移植への理解を深めるため、命の大切さについて小・中・高校生を対象とした講座「命の学習会」を積極的に展開し、これまでに5カ所で開催していることや、人気プロスポーツチーム「宇都宮ブレックス」との共同企画事業として、有名選手等を「栃木県臓器移植推進サポーター」に任命し、普及啓発活動の一役を担っていただいていること、更に12～1月に開催された試合の会場において、オリジナル意思表示カードを入場観戦者に配布していることなどが報告されました。

コーディネート活動奨励事業では、院内移植コーディネーターの皆さんに対し、円滑な情報連絡・相談体制等を構築するための研修を既に2回開催し、2月にも開催予定であることが報告されました。

そのほか、昨年度から始まった支援型飲料自動販売機設置事業については、今年度も3施設で設置していただき、継続して寄付金をいただけるようになりました。

次に、令和2年度の事業計画については、「臓器移植普及推進街頭キャンペーン」や「命の学習会」など、従来からの普及啓発事業の着実な実施、また、プロスポーツチームとの共同企画の継続実施や、日本臓器移植ネットワーク、栃木県等との連携を強化し、各般の事業を幅広く実施するとともに、支援型飲料自動販売機の設置促進を図ること、マスメディアの効果的な活用などについて協議いたしました。

透析委員会活動

委員長 目黒 輝雄（協会理事）

透析委員会では、県内の全ての医療機関の協力を得て、毎年12月末日時点での「人工透析医療実態調査」と、新たに透析療法を導入された患者さんの状況について、発生の都度、患者匿名により医療機関から報告していただく「透析導入時調査」を行っています。

両調査の結果につきましては、それぞれ分析の上統計処理したものを公表し、行政の腎不全対策や、透析医療の質の向上に役立させていただいております。

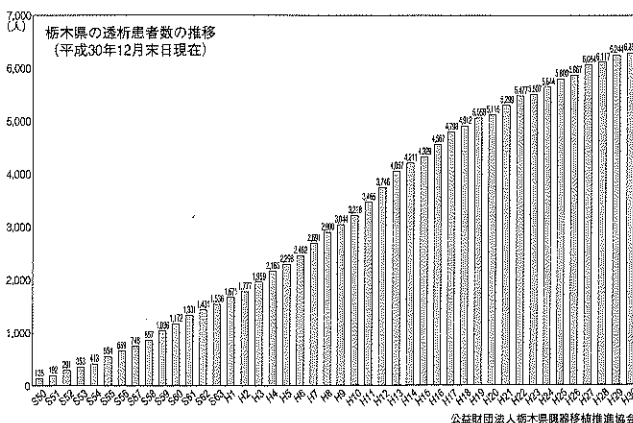
今年度は令和元年10月8日（火）に透析委員会を開催し、平成30年分の調査結果の分析と、令和元年分の調査実施計画の策定を行いました。

平成30年分の調査結果につきましては、その一部（透析医療機関と透析患者の動向、腎臓移植の現況等）を本紙に別掲しておりますが、全透析患者数は平成29年より38人増加し6,282人になりました。急激な増加の時代は終わり、なだらかな増加傾向が続いています。原疾患別の透析患者数は、糖尿病性腎症が44.2%、慢性糸球体腎炎（ネフローゼを含む）が31.4%と多くを占めています。また、1年間の透析導入患者数は614人でした。

糖尿病は、多くの場合、早期発見と継続治療により、腎症、腎不全への進行が防げる病気です。糖尿病といわれたら、しっかり根気よく治療を続けることが肝要です。

各透析医療機関におかれましては、実態調査の趣旨を御理解いただき、記入上の注意等を確認の上、記入もれや誤記入のないよう、よろしく御協力をお願いしたいと思います。

今後とも、透析委員会の活動に御理解と御協力をお願いします。



できごと

臓器移植普及推進月間における「街頭キャンペーン」

当協会の普及啓発活動の主な事業の一つであります「街頭キャンペーン」を、栃木県、透析医療機関、栃木県腎友会、ライオンズクラブ等関係団体の協力をいただき、10月の臓器移植普及推進月間に併せて、県内3か所で実施しました。

本県オリジナルの「臓器提供意思表示カード付きリーフレット」に啓発グッズ（エコバッグ）をセットにしたものの配布や、血圧測定を含む医療生活相談、臓器移植に関する意識調査（アンケート調査）等を実施しました。

【県央地区】 宇都宮市・オリオン通りイベント広場
9月29日（日）は天候に恵まれた中、昨年を引き続き「オリオン通りイベント広場」で開催しました。

開催セレモニーで、主催者、関係団体の代表者から挨拶の後、キャンペーン活動に入りました。毎年、栃木県臓器移植推進活動に協力していただいている「宇都宮ブレックス」より、チアリーダーチーム・BREXYから3名及びマスコットキャラクター「ブレッキー」が駆けつけてくれました。ダンスを披露したり、アンケート活動を行ったりと、通行した方々とも楽しそうにふれ合うとともに、応援もたくさんいただきました。

キャンペーンには、86名の関係者に参加していただき、通行人を対象に「オリジナルの臓器提供意思表示カード（啓発グッズとセット）」の配布（1,000部）やアンケート調査、希望者に対して医療生活相談を実施しました。



【県南地区】 佐野市・イオンモール佐野新都市店

10月5日（土）、屋内スペースをお借りしてキャンペーンを実施しました。天気も良く、買い物のお客様がたくさん来場し、多くの皆様に臓器移植普及推進について知っていただくことができました。血圧測定や健康相談のコーナーを設けて来場者にアピールしたほか、臓器移植についての問い合わせにも対応し、多くの方々に啓発活動ができました。



【県北地区】 那須塩原市・にしなすの運動公園

10月19日（土）に西那須野産業文化祭の会場においてキャンペーンを開催しました。おだやかな日となり、恒例のお祭りを楽しみに訪れた皆様がブースに立ち寄ってくださり、アンケート調査にも快く協力していただきました。多くの皆様に啓発活動ができました。

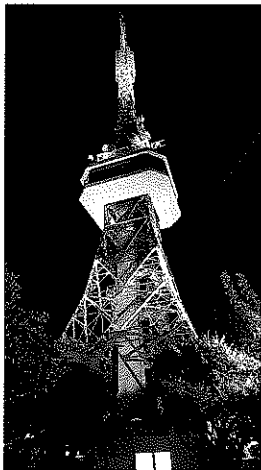


なお、3日間総勢161名のキャンペーンスタッフに御協力をいただき、3会場において、臓器提供意思表示カードと啓発グッズを約2,800セット配付することができました。これらの活動を通じて、移植医療に対する理解が深まったことと思います。

「宇都宮タワーのライトアップ」「懸垂幕の
掲示」「とちまるくん人形への飾りつけ」

昨年度に引き続き10月の臓器移植普及推進月間に合わせて、宇都宮タワーを臓器移植のシンボルカラーのグリーンでライトアップしました。移植医療を待つ患者さんに希望の光が届くことを願うとともに、県民が臓器移植について考えるきっかけづくりとなることを願って、夜空に鮮やかな光を放っていました。

また、臓器移植普及推進月間を広く周知するため、県庁南館に懸垂幕の掲示のほか、県庁正面玄関のとちまるくん人形に推進月間を知らせる飾りつけを実施しました。

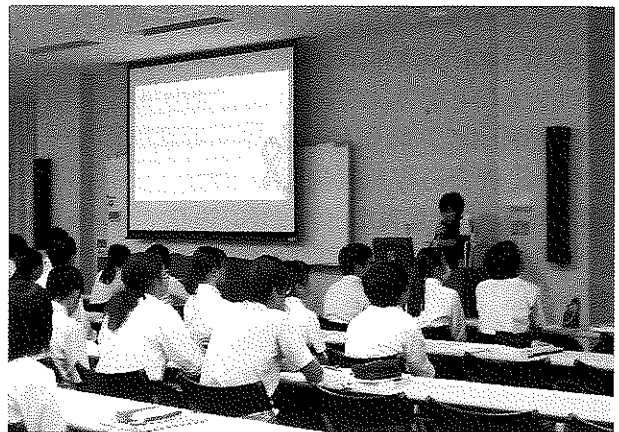


命の学習会（令和元年度）

命の学習会講師派遣事業は、小学校・中学校・高等学校などの児童・生徒に臓器移植医療を通じて、命の尊さや大切さを理解してもらうため、平成20年度から実施しております。今年度は県立宇都宮東高等学校附属中学校、日光市立今市小学校、小山市立萱橋小学校、県立小山城南高等学校、那須町立那須中学校、の5校で実施いたしました。

○県立宇都宮東高等学校附属中学校(3年生 103名)

臓器移植の概要と、法改正に至った背景について学び、県内の大学病院で小児肝臓移植レシピエントコーディネーターの方から、移植医療の実際を通して、自分や自分以外の命の大切さ、尊さについて講話がありました。終了後のアンケートでは「健康なからだを大切に、1日1日一生懸命に生きようと思った」「医療スタッフの方々が、患者さんの生き方を尊重することを第一に考える姿勢に感動した」「普通の生活の大切さに気づくことができた」などの感想がありました。



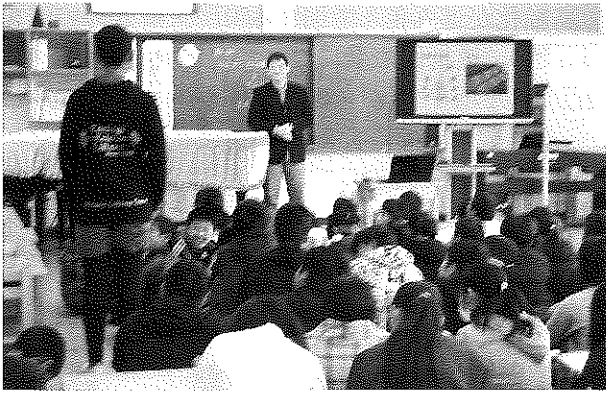
○日光市立今市小学校(4年生 30人)

日本と栃木県の臓器移植の現状と、4つの権利「もらいたい」「もらいたくない」「あげたい」「あげたくない」について学びました。

もし自分だったらどうしたいか、家族だったらどうしたいか、グループで話し合いました。児童からは「他人の臓器だったらもらいたい」「家族で誰かがあげなくちゃならないとしたら兄弟だとかかわいそうなので、自分があげてもいい」など様々な発表がありました。

○小山市立萱橋小学校(5、6年生 54名)

薬や手術では治すことができない病気でも、臓器移植をすれば普通の生活ができることを知りました。そうして実際に角膜移植を受けて、夢であったお菓子屋さんを営んでいる方から体験談を聞きました。体験談では、小学校の時は同級生や先生の理解や協力があり楽しく学校生活を送ることができたことや、自分の好きなことや興味があることを続けていくと、いつか夢が叶う時が来ることなど、お話しがありました。終了後は「小学校で1番好きだった授業はなんですか」「おいしいお菓子の見分け方を教えて下さい」など質問がありました。



○県立小山城南高等学校（3年生 194名）

日本の臓器移植の現状についてDVDを試聴し、栃木県出身の元お笑い芸人・萩原正人さんから、臓器移植を体験した講話がありました。講話では、芸人仲間の支援があって海外で肝腎移植を受けることができたことや、その後の人生について講話がありました。終了後のアンケートでは「精一杯生きることや、時には人を頼りにすることも必要であることがよくわかった」「周りの人との関わりを大切に、友達も大切に、という言葉に重みを感じた」などの感想がありました。



○那須町立那須中学校（全生徒 180名）

日本の臓器移植と、県内でも臓器提供や移植が行われていることについて学びました。

「もしも家族が臓器移植が必要な重い病気になったら移植手術をして欲しいですか」という議題をグループで話し合ったところ「長生きして欲しいから手術を受けて欲しい」「人間には寿命があるので無理はしたくない」などの意見がありました。また、「家族が臓器をあげたいと言ったら賛成しますか」という質問では「自分の気持ちは複雑だけど、本人の希望を尊重したい」などの意見がありました。

院内移植コーディネーター研修会

臓器移植の推進を図るため、協力の得られる県内の医療機関に栃木県院内移植コーディネーターを設置しております。今年度は任期満了のため、10月に、18施設37名の院内移植コディ

ネーターの方に委嘱状を交付しました。今後のご活躍を期待しています。

また、院内移植コーディネーターの資質向上と円滑な臓器提供のために、年3回、研修会を開催しております。

今年度の実施内容等は次のとおりです。

○第43回栃木県院内移植コーディネーター研修会（令和元年6月）

1 研修『日本における臓器移植の現況』

(1)「臓器移植の現状について～日本臓器移植ネットワークの活動の実際～」

講師：（公社）日本臓器移植ネットワーク
臓器移植コーディネーター

金山 愛 氏

(2)「栃木県の臓器移植の現況」

講師：（公財）栃木県臓器移植推進協会
臓器移植コーディネーター

五反田真弓 氏

2 事業説明

「令和元年度都道府県支援事業費助成金に係る医療機関による臓器移植を円滑に推進するための事業計画について」

（公財）栃木県臓器移植推進協会 事務局長

齋藤 篤雄

○栃木県院内移植コーディネーター委嘱状交付式及び第44回研修会（令和元年10月）

1 委嘱状交付式

委嘱状交付

（公財）栃木県臓器移植推進協会理事長

太田 照男 氏

2 研修会

(1)『腎臓移植の実際』

（公財）栃木県臓器移植推進協会

臓器移植推進会議委員

自治医科大学

腎泌尿器外科学講座腎臓外科部門 教授

八木澤 隆 氏

(2)『日本の臓器移植の現状と栃木県の現況』

（公財）栃木県臓器移植推進協会

栃木県臓器移植コーディネーター

五反田真弓 氏

(3)『栃木県院内移植コーディネーター業務について』

（公財）栃木県臓器移植推進協会 事務局長

齋藤 篤雄 氏

○第45回栃木県院内移植コーディネーター研修会（令和2年2月予定）

臓器移植推進サポーター任命式

オリジナル臓器提供意思表示カードの作成・配布や普及啓発ポスターの作成・掲示などで多岐にわたり協力をいただいている『宇都宮ブレックス』との共同企画の一環として、今年度も、ブレックスの有名選手と専属チアリーダーに「栃木県臓器移植推進サポーター」として、幅広く広報普及活動を行っていただいています。

当協会では、去る9月10日(火)に、今年度の「栃木県臓器移植推進サポーター任命式」を行いました。

サポーターに任命したのは、2018ベスト3P成功率賞を獲得した喜多川修平選手と専属チアリーダー「BREXY」のYASUKAさんの2名で、当日は、喜多川選手に当協会の太田照男理事長から任命書と臓器移植のシンボルであるグリーンリボンバッジが手渡されました。

喜多川選手は、「臓器移植がより多く行われるよう、全力で広報活動のお手伝いをさせていただきます。」と抱負が述べられました。

また、当日は欠席となりましたYASUKAさんにも後日、チームを通じて任命書とグリーンリボンバッジをお渡ししました。

このサポーター任命式や街頭キャンペーンでの普及啓発活動の様子は、TV・ラジオ・新聞等多くのマスメディアで報道され、臓器移植推進に関して、多くのPR効果を生み出しました。



関係団体報告

栃木県腎臓病患者友の会について

栃木県腎臓病患者友の会 会長 長山 八洲稔

栃木県腎臓病患者友の会(栃木県腎友会)は、主に県内医療施設で透析を受けている患者で組織し、主に透析医療制度の維持と会員の医療知識の向上そして患者同士の交流促進等の活動を行い、安心して透析生活が送れるよう会員サポートを行っております。

本紙面をお借りして、その一部を紹介させていただきます。

高齢化が進み年々増加する国民医療費の縮減を図るため、“透析医療費についても公的補助を減らし、自己負担を増やす”が全国的に広がりつつあります。しかしながら、県内で透析を受けている約6,500人の3/4が60歳以上の高齢者で、その生活実態は年収200万円未満という厳しい状況におかれています。この現状を広く訴え、公的補助による透析医療制度を今後も継続するよう、国や栃木県に要望し、公的補助による透析医療を維持する活動を行っています。

また県内透析患者の残り1/4が60歳未満の働ける世代です。こうした方々は、腎移植を受けることで制約の厳しい透析生活から離脱し、健常者並みの社会復帰ができるようになります。本会では、ドナー登録の向上と移植医療の普及を図るため、栃木県臓器移植推進協会が毎年実施している「臓器移植推進街頭キャンペーン」に積極的に参加・協力し、一人でも多くの透析患者が社会復帰できるような活動を行っています。

その他、令和元(2019)年に実施した本会の主な活動を紹介させていただきます。

- ・1月：栃木県腎友会ユース部交流会(働く世代の意見交換会)の開催
- ・3月：「腎疾患総合対策」の請願書署名運動と国会請願活動の実施
栃木県腎友会交流会(医療相談会、生活相談会、意見交換会)の開催
- ・6月：医療講演会「健康の三要素 食事/運動/休養～あなたに足りないのは?～」(国際医療福祉大教授 安藤靖宏先生)の開催
- ・10月：臓器移植推進街頭キャンペーン参加(県南・県央・県北の3ヶ所)
- ・11月：県保健福祉部への要望活動の実施(県難病連と合同)
「透析患者のための健康教室」(国際医療福祉大教授 安藤康弘先生)の開催
- ・隔月：会報「栃腎友だより」、年1回：会報誌「あおぞら」の発行等

最後に、本会は透析患者だけでなく、平成28(2016)年度から一般(健常者)の方にも会員(賛助会員、家族会員、サポート会員、ボランティア会員)となっただいております。令和元(2019)年末時点で128名の方々に本会を支援していただいております。おかげさまで、本会の活動がより充実したものとなっております。ご支援いただいている皆様に感謝申し上げます。

結びに、本会は今後も透析患者の心のサポーターとなれるよう努めてまいりますので、読者の皆様におかれましても、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

移植関係者

糖尿病と腎移植

自治医科大学 移植・再生医療センター
センター長 八木澤 隆

腎移植の成績は向上し、移植の適応は広がってきています。腎不全の原因となった原疾患についても制限はほとんどなくなっています。こうしたことから最近増加しているのが糖尿病の方の移植です。現在、糖尿病は腎不全に至る疾患の中では最も高頻度で、これが背景にあります。日本では最近、年間320~330件の糖尿病の方の移植が行われ、全体の22~23%を占めています。移植後の生着率（腎臓が機能する割合）は1年97.7%、5年90.1%と他疾患と同様で、腎提供者の方がいて、移植のチャンスがあれば、お薦めできるオプションです。しかし、すべての方が移植適応となるわけではありません。血糖コントロールが不良であったり、全身の動脈硬化、血管石灰化が高度で虚血性心疾患や下肢の血流障害などを合併している場合には慎重な適応決定が必要です。移植医、腎臓専門医、糖尿病専門医、さらには循環器専門医による評価を基に適応が決定されます。長期にわたり移植腎機能を維持するためには移植後も血糖管理を含めた全身管理が不可欠で、移植医の他、糖尿病専門医による診療も継続します。こうした関連診療科の連携によって成績は向上していますが5年以降の成績は他疾患と比べてやや不良で、この改善が今後の課題です。

1型糖尿病腎不全では膵腎同時移植も適応です。脳死下の膵臓、腎臓の提供による移植で件数は年々増加しています。膵腎が機能すれば、インスリン治療、透析とも不要となります。この移植を受けるには臓器移植ネットワークに登録することが必要で現在、全国で約160名の方が登録されています。そして移植件数は2018年が31件、2019年が46件と腎臓の単独移植と比べ、移植候補者となる確率は10倍程度も高くなっています。臓器移植ネットワークに登録が可能であるかの決定は慎重になされますが1型糖尿病腎不全患者の方は治療オプションの一つとして検討されて良いと思います。

「皆さまこんにちは。獨協医科大学第二外科です」

獨協医科大学第二外科医局長 磯 幸博

皆さまこんにちは。獨協医科大学第二外科の磯幸博（いそ ゆきひろ）と申します。われわれ獨協医科大学第二外科は、主任教授の窪田敬一（くぼた けいいち）を中心に外科疾患全般を治療対象として扱っております。しかしその中でも、肝臓・胆嚢・膵臓・大腸などの良悪性疾患治療と肝臓・膵臓・腎臓の移植医療には特に力を入れております。肝臓切除は2,000例、膵臓切除は600例超の患者様数をかぞえる近郊でも有数の施設であり、移植医療は肝臓43例、腎臓27例、膵臓は2例（どちらも膵臓腎臓同時移植）の治療実績数を誇ります。

日本の移植医療の成績は世界でもトップクラスになり、2010年の改正臓器移植法施行後は脳死ドナーも増加傾向を示しております。特に当科で脳死膵臓腎臓同時移植手術を受けられた患者様は、お二人ともインスリン注射や血液維持透析から離脱することができ、新たな日常生活を送ることが出来ております。

2020年2月現在、獨協医科大学第二外科では日本移植学会移植認定医5名と認定レジピエント移植コーディネーター1名を有し、近郊地域の皆さまの移植医療が円滑に進むよう万全の体制を常時整えております。

移植医療に携わる者として、すべての移植手術を安全に成功させ、患者様には元気にご自宅に帰って新たな日常生活を送って頂きたいという思いを常に強く抱いております。移植医療を必要とされている患者様がいらっしゃる以上、われわれも誠心誠意、信念と使命を持って24時間365日治療に充たらせて頂きますので、今後とも末永きお付き合いのほど何卒宜しくお願い申し上げます。

ご相談ごとやお悩みごとなどございましたら、お気軽に下記までご連絡下さい。移植医療だけでなく、外科全般どんなことでも結構です。皆さまからのご連絡をお待ち申し上げます。

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880番地
獨協医科大学病院 第二外科

外来受付電話：0282-87-2203

医局直通電話：0282-87-2158

医局直通FAX：0282-86-6317

メールアドレス：geka2dokkyo@hotmail.com

*お気軽にお問い合わせ下さい

院内移植コーディネーターとして

獨協医科大学病院 看護部
白石 浩子

獨協医科大学病院は、1,164病床の特定機能病院であり、高度で良質な医療の提供をしています。平成22年度からドクターヘリ事業を開始、年間800件の県内外へ緊急出動し活躍しております。さらに、臓器提供（脳死下・心停止下）を行う施設で、また、肝臓移植、腎臓移植、脾臓移植、肺移植、角膜移植を実施しております。それらの移植に対して臓器別のレシピエントコーディネーターが活躍しています。

私は、栃木県の各病院に院内移植コーディネーターを配置する時から関わり、15年になります。救急看護認定看護師の取得期間中の授業で学んだのをきっかけに、院内移植コーディネーターを始めました。

臓器提供情報があると、電子カルテで患者の情報を確認して、すぐに栃木県移植コーディネーターの五反田さんに電話し、相談しています。五反田さんの助言と患者さんの状態から大まかな方針を決めて、患者・家族のもとに伺いますが、患者・家族の前では、いつも緊張します。移植の希望は、家族ばかりではなく、意識のある患者さんからですと、移植はその人の死亡後の恩恵なので、さらに緊張します。今まで、臓器提供に至らなかった方、角膜提供、心停止下の臓器提供2名、脳死下の臓器提供1名を経験してきましたが、その都度、患者・家族の思いに寄り添い、それをその部署そのスタッフに伝えるようにしています。

臓器提供後は、五反田さんから、移植された患者の状態と家族の状況を聞き、いつもほっとしています。今後も患者や家族の思いのために、その部署のスタッフと協力し、円滑に臓器提供ができることと、残された家族が「移植ができてよかった。」と思えるような関わりができるようにしていきたいと思っています。



院内移植コーディネーターとして

芳賀赤十字病院 看護部
谷中 美江子

当院は、県東地区医療を担う中核病院であり、心停止下臓器提供する施設です。昨年3月に新病院へ移転し、地域に貢献できる医療を目指しています。

私が院内移植コーディネーターとして活動を始めてから9年目になります。就任当初は、院内移植コーディネーターとして役割が果たせるのか不安でしたが、以前から活動していた看護師長に指導を受け、県臓器移植コーディネーターとの連携ができるようになりました。主な活動は、年間3回の研修会参加、臓器移植の普及・啓蒙活動や院内体制整備、院内研修会企画、臓器移植の申し出があった際の患者・家族の対応などがあります。

私が院内移植コーディネーターとして関わった中で、印象に残ったケースを紹介します。

70代男性。救急車で当院に運ばれ、小脳梗塞と診断されてから治療1ヶ月後、人工呼吸器が外せないまま転院調整していた患者さんでした。ご家族がソーシャルワーカーと転院の相談をされていた時、臓器移植の話が聞きたいとの申し出があり、担当のソーシャルワーカーから院内移植コーディネーターに相談がありました。私は緊張しながら相談室に向かいました。ご家族は「元気なお父さんに戻れないなら、人に役立つことをしたい」と涙ぐみながら話されました。ご家族の思いを伺うと1ヶ月間、病状の不安と様々な葛藤があったのだと思いました。県臓器移植コーディネーターである五反田さんに連絡し、ご家族へ転院後の対応について丁寧に説明していただきました。患者さんの病状は安定されており、その時期ではないとの判断でした。ご家族から「思い切って話してよかった」との言葉がありました。臓器提供には至りませんでした。ご家族の思いを理解し、苦悩を受け止め寄り添っていくことの大切さを実感することができました。

この経験を忘れずに、院内移植コーディネーターとしての役割が果たせるよう努めていきたいと思っています。

ライオンズクラブの役割 ライオンズクラブ国際協会333-B地区

LCIF・アラート・献眼・献血委員長
土澤利彦

今年度も昨年度に引き続き、県民のより一層の理解と協力を得るため、臓器移植普及推進「街頭キャンペーン」県内3ヶ所の会場に延べ103名で参加し、臓器提供意思カードと啓発グッズ（エコバック）の配布活動を行いました。

県内で臓器移植希望待機者が190名以上いる中、より一層の啓発活動が必要であり、ライオンズクラブのモットーである『われわれは奉仕する』を念頭に地域密着型の活動の中でも、より多くの理解者を募っていきたいと思います。

ライオンズクラブ活動で、私が担当する委員会活動では、昭和51年日本で24番目、ライオンズによる全国初のアイバンクが設立され今期43期を迎えました。病気・怪我等により目の不自由な方々に角膜移植する事により再び光を取り戻すための献眼登録活動を行っております。これまでに累計26,443名の方々にご登録頂き、893名の方々に尊い角膜提供をして頂きました。1,672名の方が光を取り戻す事が出来ております。(2020. 1月末現在)

また、臓器移植施術等には不可欠な献血推進活動も行っております。各単位クラブ主催・エリア合同の献血会を年数回から多いクラブでは20回以上行っております。台風19号の甚大な被害により献血会中止のクラブがあったにもかかわらず、平日開催を休日開催にする等の工夫により昨年度以上の採血協力を頂いております。(7月～1月末現在4,965人により1,928,200cc)

今後も(公)栃木県臓器移植推進協会の活動推進に協力していきたいと思っております。

ライオンズクラブ国際協会 ミニ知識

1917年にアメリカシカゴで発足し、200以上の国や領域に48,571クラブ144万人在籍。日本では2,956クラブ112,122万人在籍の奉仕団体。

333-B地区とは

新潟県A 栃木県B 千葉県C 群馬県D 茨城県Eの五つの県で333地区が複合組織され、その中にB地区(栃木県)があり45クラブ1,555名の会員で組織されている。(2019. 12月末現在)

思いを伝える

臓器移植推進サポーター (BREXY)
YASUKA

みなさんこんにちは！この度、臓器移植推進サポーターに任命していただきました、プロバスケケットボールチーム・宇都宮ブレックス専属チアリーダーBREXYのYASUKAです。

今シーズンの推進サポーターとして、臓器移植について1人でも多くの方に知っていただけるよう、PR活動に励みたいのでよろしく願います。

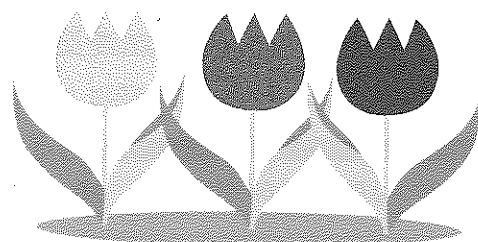
BREXYになって5年目ですが、歴代のメンバーが推進サポーターとして活動している姿をみたり、運転免許証を取得したり、臓器提供意思表示カードを持ったりという経験がありますが、私自身が意思表示をするという事までには至らず、自分とは遠いまだ先のように考えていました。

臓器提供に関して意思表示をしている人は約13%、していない人は約85%、また、臓器移植を待っている人は約14,000人でそのうち移植を受けられる人は、わずか2%だと知りました。

先日、国内16例目となる6歳未満の脳死判定による臓器移植が行われたというニュースを目にしました。心臓、肺、肝臓、腎臓、小腸が移植されたそうです。ご家族は結論を出すまでも悩まれたと思います。ですが、周りを喜ばせること、笑顔にすることが大好きだったお子さんの姿から臓器提供を決めたそうです。

いつ、何が起こるのかは誰にもわからないことです。自分のため、家族のためにも、臓器提供について一度考える機会を作り、多くの方が臓器提供意思表示カードの記入をして自らの意思を形にしてほしいです。

ブレックスのホームゲームやイベントに参加するとたくさんの方々にお会いする機会があります。チアリーダーの活動を通して笑顔と元気をお届けするとともに、推進サポーターとしての活動にも励んでいきたいと思っております。



栃木県慢性腎不全治療の概要

協会理事 目黒輝雄

協会では、前身の腎不全対策協会発足時から20有余年にわたり、毎年、栃木県内の人工透析医療実態調査を行い、透析患者数の推移などについてデータ化し、腎不全治療に役立てていただくため、公表しております。これも透析医療機関の皆様方のお陰でありまして、改めてお礼を申し上げます。

平成30年末における人工透析医療実態調査の主な結果は次のとおりです。

透析患者は、患者数推移のグラフ（P2）でも分かるとおり、急激な増加の時代は終わり、なだらかな増加傾向が続いています。全透析患者数の原疾患別の割合では、慢性糸球体腎炎が31.4%（前年比0.2ポイント減少）、糖尿病性腎症が44.2%（前年比1.3ポイント増加）で、糖尿病の割合は年々増加の一途です。次いで、腎硬化症、のう胞腎の順となっております。

1. 人工透析施設の動向

	平成30年	平成29年	平成28年
透析施設数	78	79	79
同時透析能力	2,696	2,668	2,620
患者収容能力（人）	7,688	7,805	7,554
CAPD実施施設数	8	11	10
夜間透析実施施設数	36	37	37

2. 透析患者の動向

	平成30年	平成29年	平成28年
(1)透析患者総数（人）	6,282	6,224	6,117
入院患者数	469	508	501
透析方法			
①血液透析	6,204	6,142	6,016
（うちHDF）	709	471	395
（うち家庭透析）	7	3	2
②腹膜透析	78	101	101
（血液透析併用含む）			
(2)透析導入・死亡（人）			
年間透析導入患者数	614	797	770
年間死亡患者数	593	612	632

3. 腎臓移植の現況

	平成30年	平成29年	平成28年
(1)年間腎臓移植患者数	30	32	40
献腎移植	2	1	3
生体腎移植	28	31	37
(2)腎臓移植者総数(累計)	597	567	532
献腎移植	88	86	85
(3)臓器提供者数(年間)	2	0	5
献腎(心停止後腎臓提供)	1	0	0
脳死下臓器提供	1	0	5
臓器提供者数(累計)	28	26	26

【参考】 血液透析患者の週当たりの透析回数と時間(CAPD、HDの併と在宅透析は除く)

週3回	5時間以上	413人
週3回	4時間以上5時間未満	4,193人
週3回	4時間未満	1,348人
週2回	5時間以上	8人
週2回	4時間以上5時間未満	76人
週2回	4時間未満	91人
週1回	4時間以上5時間未満	5人

臓器提供意思表示カード等についてのアンケート調査結果（令和元）

○街頭キャンペーンにおけるアンケート調査(意識調査) 意思表示カード等についてのアンケートを、キャンペーンスタッフの皆様の協力を得て実施しました。

1 実施場所

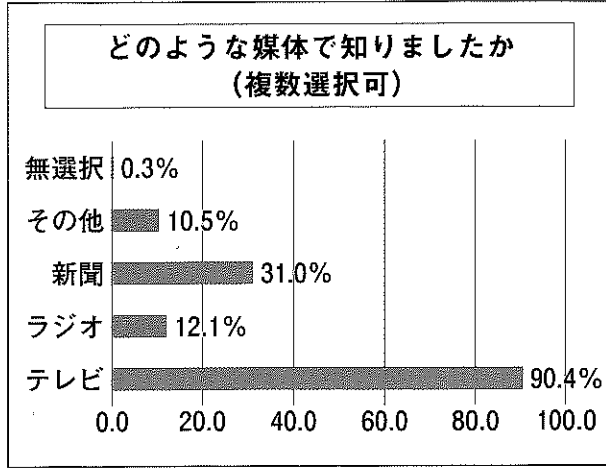
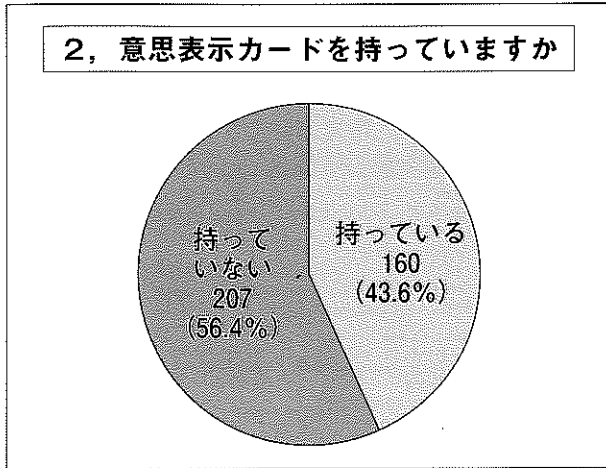
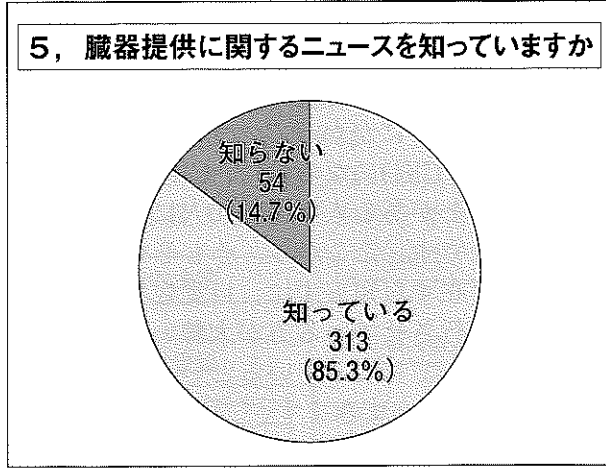
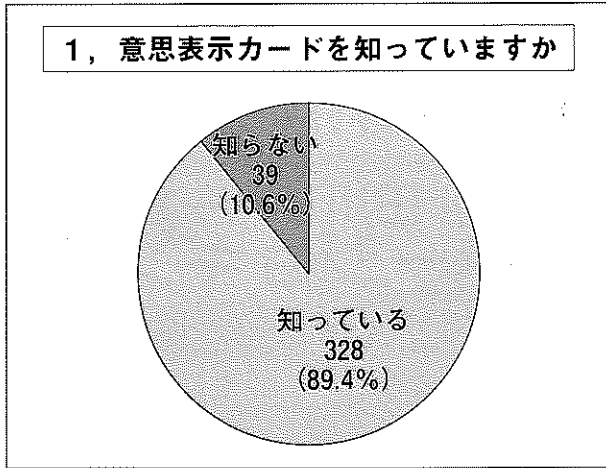
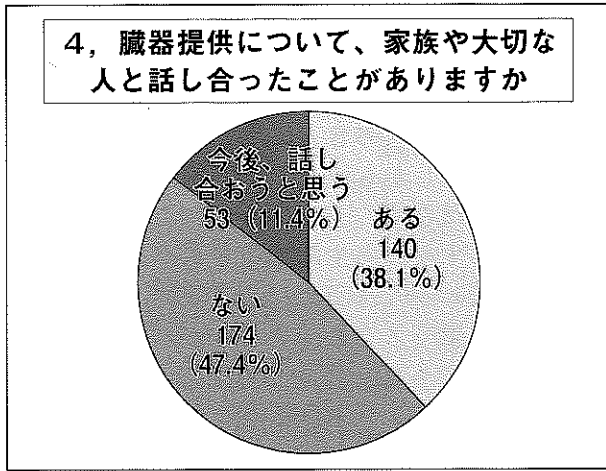
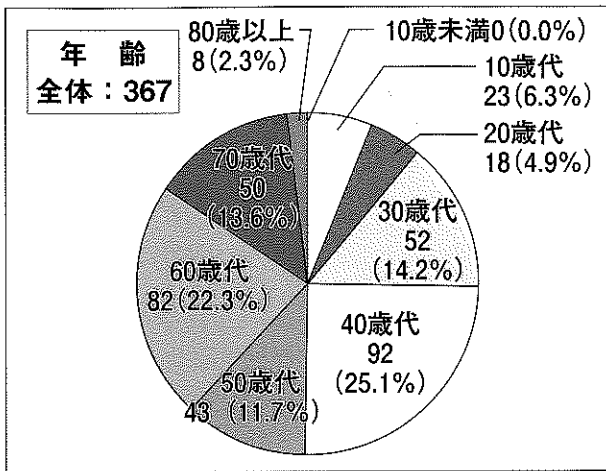
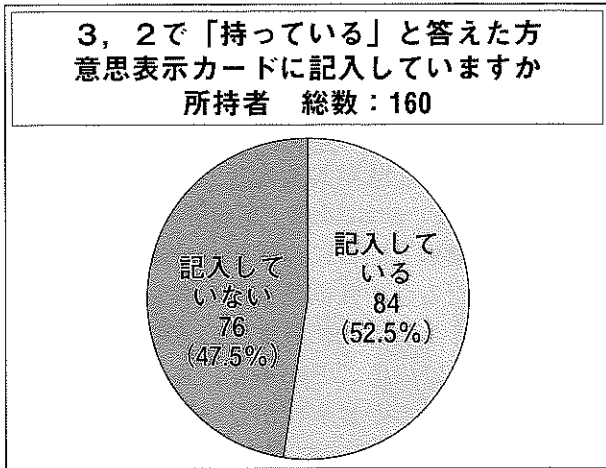
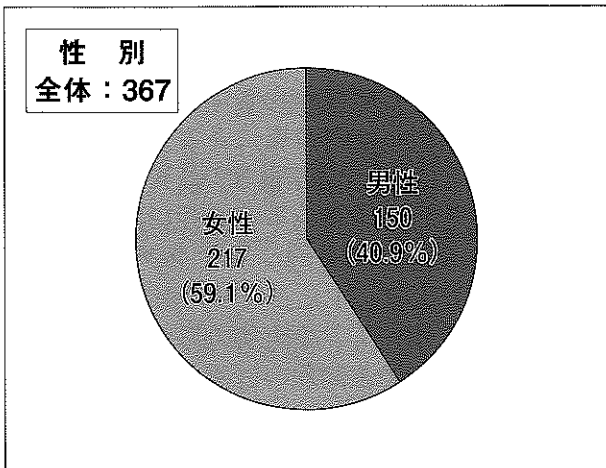
9月29日(日) オリオン通りイベント広場 周辺(宇都宮市)

10月19日(土) にしなすの運動公園(那須塩原市)

2 回答総数 367名(男性150名、女性217名)

3 質問項目

- ①「臓器提供意思表示カード」を知っていますか？
- ②「臓器提供意思表示カード」を持っていますか？
- ③(②で持っているとした方)「臓器提供意思表示カード」に自分の意思を記入していますか？
- ④臓器提供について、家族や大切な人と話し合ったことがありますか？
(ある ない 今後、話し合おうと思う)
- ⑤臓器移植に関するニュースを知っていますか
(知っている場合、TV ラジオ 新聞 その他)の5項目で、その主な結果は次のとおりでした。



慢性腎臓病“CKD”は一生のうちに2人に1人がかかる生活習慣病です

慢性腎臓病は英語で**Chronic Kidney Disease**といい、CKDが全世界共通の正式略号です。CKDは生活習慣病の一つであり、高血圧や糖尿病など、他の生活習慣病と同様に症状がないまま進行してゆきます。だるさや食欲低下、吐き気などの自覚症状が出てくる頃には、最重症の末期腎不全（尿毒症）となっていることが多く、また末期腎不全に至る以前の全く自覚症状がない段階でも、脳卒中や心臓病で死亡するリスクが高くなります。尿量や体調では腎機能の自己判断は不可能で、CKDの早期発見には腎機能検査（血清クレアチニン濃度測定と尿検査）が不可欠です。

我が国では成人の8人に1人がCKDと推定されています。しかも残りの7人はCKDに無縁ということではなく、一生のうちにこの病気にかかる確率、すなわち生涯罹患リスクは約5割であり、2人に1人はCKDになります。これはがんの生涯罹患リスクと同等ですが、がんは大人も子供も誰でも知っている病名なのに対して、私たちRAV-CKD（CKD啓発動画研究会）がこれまで3年ごとに計3回、宇都宮と横浜で実施してきた街頭アンケート調査では、CKDという病名を聞いたことがある人の割合は、最新の一昨年の集計でも8%程度に過ぎません。8人に1人が現在CKDにかかっていて、2人に1人は一生のうちにCKDになるのに、CKDという病名を聞いたことがある人ですら10人に1人にも満たないわけです。ここから、そもそもCKDという病気の存在すら知らずに、自覚症状がないまま病気を進行させている方が大勢いて、透析や腎移植に至ってしまっているという憂うべき現状が浮かび上がってきます。

私たちRAV-CKD（CKD啓発動画研究会）は、CKDの認知率向上のために、2010年9月よりYouTube動画を中心とした啓発活動を続けており（「CKD動画」→YouTube検索）、動画総再生回数は2020年1月末で24万8千回となっています。

2019年も啓発活動を継続し、(1)2016年から継続している食と運動と健康をテーマにした一般公募のスロージョギングを4月と10月に開催（写真1）、(2)CKD啓発活動を支援いただいている音楽家、トリオ・フルールと白石佐和子さんのご提案で2017年11月新宿オペラシティからスタートしたCKD啓発支援音楽コンサートを、6月に宇都宮サザンクロスホールで開催（写真2）、

(3)10月には色鉛筆画家、白石里子さんにご協力いただき、新潟県民会館でCKD啓発絵画展を開催（元々宇都宮と同様の音楽コンサートとの同時開催の企画だったが台風による交通遮断で音楽コンサートは中止）（写真3、4）を行なっております。そして現在、本年4月12日の第8回田川リバーサイドスロージョギング（写真1）の開催準備と広報、中止となった新潟でのCKD啓発支援コンサート・絵画展の再企画、および新たなCKD啓発動画制作の計画を進めているところです。

この記事をご覧になった皆様もRAV-CKDホームページ（<http://www.ckd-ckd.jp/>）に多数掲載されている気軽なCKD啓発動画をご家族・お知り合いにもお勧めいただき、

『誰も知らないけど 誰もがかかるCKD』

の認知度アップに、ご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

2020年2月 CKD啓発動画研究会（RAV-CKD）
代表幹事 安藤 康宏
（国際医療福祉大学病院 予防医学センター腎臓内科）

写真1 田川リバーサイドスロージョギング（食と運動と健康をテーマとした春秋2回の一般公募イベント）：2020年4月12開催予定の第8回の参加募集チラシ（どうぞご参加ください!）

下野運動療法勉強会(STEC)-寿限無餃子工房共催/青源味増協賛

第8回 田川リバーサイドスロージョギング
2020年4月12日(日曜)

祝 **STEC 10周年**の参加特典満載です!

参加特典: ①参加無料
②寿限無クーポン: サムライ寿限無で、お土産用寿限無餃子15%引き
③青源クーポン: 1枚で甘酒一袋、2枚で味噌一袋進呈!
④STEC10周年記念景品付きビンゴゲーム
⑤STEC10周年記念スペシャルランチ: 『料理6品+飲み放題(通常3500円)』が2500円(アルコール飲み放題は2000円)! (要事前予約・10名以上でご利用)

参加申し込み: 4月6日(月)までに stec_event@yahoo.co.jp にメールで(雨天中止は当日6時までにメール連絡)

募集人数: 先着30名

お問い合わせ先: 居酒屋サムライ寿限無
TEL: 028-610-1515(月~土、17~24時)

当日予定: 9時居酒屋サムライ寿限無集合
- 医師のミニ健康講話-準備体操
- 田川沿い3kmが5kmコースを、1分歩き/1分スロージョギングの繰り返しで周回
- 11時頃サムライ寿限無帰着-整理体操
- ビンゴゲーム後解散/ランチ

写真2 CKD啓発支援コンサート@宇都宮サザンクロスホール

CKD(慢性腎臓病)啓発支援

トリオフルール & 白石 佐和子 コンサート in 宇都宮

第1部 ミニレクチャー 17:00~
「腎臓と健康を守りましょう」
講師 安藤 康宏先生
CKD啓発研究会 代表理事
NPO法人 日本腎臓協会 理事

第2部 コンサート 17:30~
トリオ・フルール & 白石 佐和子
ロビー・展覧会
「白川 里子 色鉛筆の世界」

ソプラノ 白石 佐和子
色鉛筆画家 白川 里子

トリオ・フルール

2019年6月16日(日) 17:00開演/16:30開場 *14時から整理券配布(受付順)
サザンクロスホール(宇都宮市立南図書館) [宇都宮市緑 幸宮駅前 徒歩約5分]
全席自由 3,000円 (※本会学生等のご入場はご遠慮ください)

チケットお申込み・カンファティケットセンター
①チケットセンター 0120-240-540(平日10:00~18:00)
②オンラインチケット <https://www.online-ticket.com/detail.php?tid=50559&>
③お問い合わせ:トリオ・フルール事務局 E-mail: trio3flour@gmail.com

オンラインチケット購入
カンファティケットセンター

写真4 台風で中止となった「幻の」CKD啓発支援コンサート@新潟県民会館

CKD(慢性腎臓病)啓発支援

トリオフルール & 白石 佐和子 コンサート in 新潟

第1部 ミニレクチャー 17:30~
「腎臓と健康を守りましょう」
講師 成田 一衛先生

第2部 コンサート 18:00~
トリオフルール & 白石 佐和子
アメージング・グレース
チャルダッシュ・森 哲
夕焼け小焼け 色
色鉛筆画家 白川 里子
個別同時開催
小ホールロビー・談話室にて

2019年10月13日(日)
17:30開演/17:00開場 (台風の影響で延期あり)
新潟県民会館 小ホール [新潟市中央区 徒歩約13分]
全席自由 3,000円 (※本会学生等のご入場はご遠慮ください)

チケットお申込み・カンファティケットセンター
①チケットセンター 0120-240-540(平日10:00~18:00)
②オンラインチケット <http://www.online-ticket.com/detail.php?tid=52573&>
③お問い合わせ:トリオ・フルール事務局 E-mail: trio3flour@gmail.com ※NPO法人 日本腎臓協会 理事

主催:CKD啓発研究会 トリオ・フルール事務局 後援:NPO法人 日本腎臓協会
協賛:新潟県地域医療連携推進認定機構 ※新潟県地域医療連携推進認定施設にて開催されます。

写真3 CKD啓発支援絵画展@新潟県民会館

白川里子 色鉛筆画個展



会場:新潟県民会館 ☎025-228-4481 (8:30~17:15)
日時:2019年10月12日(土曜) 14時~18時(2F談話室、入場無料)
10月13日(日曜) 10時~19時(2F談話室)
10月13日(日曜) 17時~20時(小ホールロビー)

トリオフルール&白石佐和子 CKD啓発支援コンサート(下記)との同時開催のため、コンサート入場券(3000円)のご購入が必要です。
*10月13日曜日は新編タイマーマラソン会場周辺道路と駐車場が混雑いたしますので、16時以降のご来場をお勧めいたします。

同時開催:トリオフルール & 白石佐和子 CKD啓発支援コンサート
2019年10月13日(日曜) 県民会館小ホール:17時30開演/17時開場(16時~整理券配布)
入場券(全席自由席)3000円
カンファティケットセンター: ☎0120-240-540(受付時間:平日10:00~18:00)
お問い合わせ:トリオ・フルール事務局 e-mail: trio3flour@gmail.com

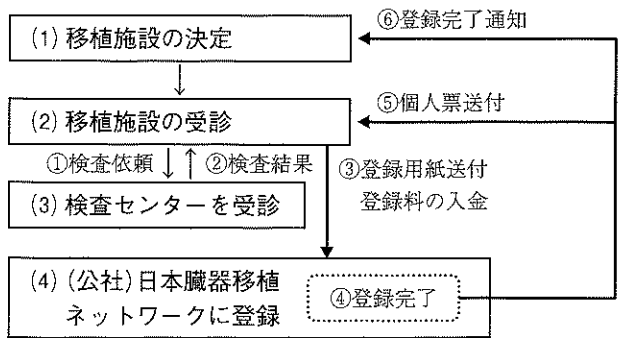
オンラインチケット購入

新潟県民会館 会場案内

Satoko Shirakawa: 1940年代より絵画で色鉛筆画を始め、10年前よりさらなる高みへ進むの志を抱き、高岡市内に移す。2012年に新潟県立病院で最初の位置を固め、以来多数の作品で好評を得ている。また病院や学校をめぐっての活動として、全国の医療・福祉施設に、作品のホストカードを無料でお届けするボランティア活動も行っている。

献腎移植希望の登録について

献腎移植を希望する場合は、(公社)日本臓器移植ネットワークに登録しなければなりません。栃木県での手続きは次のとおりとなります。



(1)移植施設の決定 (栃木県の場合)

腎臓 自治医科大学附属病院/獨協医科大学病院
 膵臓 (膵腎同時移植可能) 獨協医科大学病院
 ※担当医師とよく相談し、紹介状を書いてもらいます。なお、上記病院の電話番号は次のとおりです。自治医科大学附属病院 (TEL0285-44-2111)、獨協医科大学病院 (TEL0282-86-1111)

(2)移植施設を受診

健康保険証、身体障害者手帳、紹介状を持参し受診します。

(3)検査センターを受診（栃木県の場合）

◆自治医科大学附属病院 輸血・細胞移植部

◆獨協医科大学病院 臨床検査部

組織適合検査（採血のみ）を行います。検査費用は施設によって異なりますが、4万円前後です。

なお、検査費用の一部助成制度がありますので、（公財）栃木県臓器移植推進協会（TEL028-625-7350）に確認してください。

(4)（公社）日本臓器移植ネットワークに登録

登録料は3万円です。次の年からは更新料として毎年5千円かかります。

なお、登録料及び更新料は医療費控除の対象となります。また、生活保護世帯の方や生活保護世帯以外の生活困窮者の方は費用が減免になります。

詳しくは、（公社）日本臓器移植ネットワークのホームページ（<http://www.jotnw.or.jp>）で御確認ください。

(5)次の臓器も栃木県の医療機関で移植を受けることができます。

肺	獨協医科大学病院
肝臓（18歳未満限定）	自治医科大学附属病院
肝臓	獨協医科大学病院
	（脳死体からの移植を除く。）
小腸	自治医科大学附属病院

(6)臓器提供、臓器移植の現状

2019年（1～12月）中に、日本で行われた臓器提供は126件あり、うち脳死での提供が98件、心停止後の提供が28件ありました。この期間の栃木県内では、脳死での提供が2件ありました。また、これらの提供により、480名の方が移植を受けることができました。

移植者の現状は次のとおりです。

	平均待機期間（移植希望登録日から移植日までの期間）	移植後5年後の生存率
心臓・心肺同時移植	約3年1ヶ月	92.5%
肺・心肺同時移植	約2年5ヶ月	73.4%
肝臓・肝腎同時移植	約1年4ヶ月	82.0%
膵臓・膵腎同時移植	約3年6ヶ月	94.9%
小腸移植	約1年	73.2%
腎臓移植	約14年9ヶ月	91.1%

〔日本臓器移植ネットワークNews Letter vol.22 2019〕より

透析医療機関のみなさまへ

透析患者さんの不測の事態に備え、「緊急透析患者カード」を配布しています。

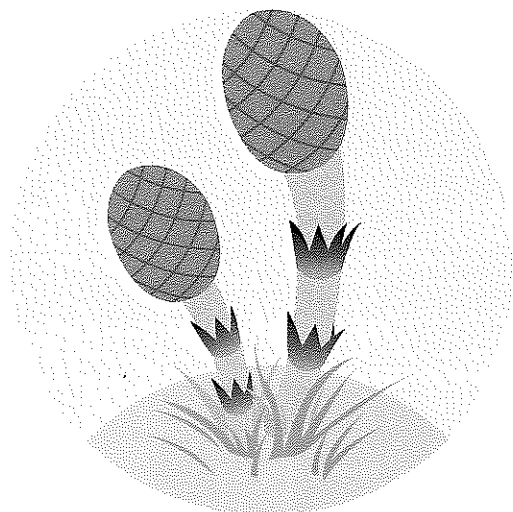
下記のようなカードですが、御希望の透析医療機関は、「公益財団法人栃木県臓器移植推進協会」までお申し出ください。

オモテ

緊急	透析患者カード
私は腎不全のため透析治療を受けています。もし、気を失ったり、倒れていた時は、最寄の医療機関に運ぶとともに、すぐに下記の透析医療機関に通報して下さい。	
病・医院名	
電話番号	
住 所	

ウラ

緊急	氏名	血液型
生年月日	M T S H 年 月 日生	()
住 所		
自 宅	電話	
非常時連絡	電話	
公益財団法人 栃木県臓器移植推進協会		
電話 028-625-7350		



事務局通信

平成26年度から「臓器移植普及推進のための募金運動」を展開しており、今年度も多くの機関から御支援をいただきました。

本誌上をお借りして、厚くお礼申し上げます。(敬称略)

●医療機関 (募金収納順)

橋本医院	小林医院	医療法人東洞会筑波医院
特別養護老人ホームゆうがの丘	手塚耳鼻咽喉科医院	藤沼医院
医療法人加藤クリニック	医療法人慈仁会飯塚医院	医療法人ナイルス
医療法人博友会原眼科医院	布川小児科	せき内科胃腸科クリニック
医療法人創生会真岡西部クリニック	島田医院	後藤医院
医療法人社団医心会中川内科クリニック	医療法人社団二樹会村山医院	とちぎメディカルセンターとちのき
医療法人社団オード・ヴィーこひらメディカルクリニック	櫻井内科診療所	医療法人星霜会熊倉医院
さくら診療所	小野整形外科	医療法人社団慶生会目黒医院
医療法人佐藤皮フ科クリニック	医療法人宇都宮健康クリニック	医療法人社団関根整形外科医院
上野医院	医療法人信和会石川医院	医療法人高橋医院
医療法人仁山会中山内科医院	医療法人社団大栗内科	医療法人貴和会中野内科医院
医療法人緑水会	手塚内科	さいとう医院
医療法人耳鼻咽喉科関根クリニック	医療法人小山すぎの木クリニック	医療法人清仁会吉澤眼科医院
医療法人青木眼科医院	医療法人泉心会坪水医院	きぬの里クリニック
医療法人社団たかはら会尾形医院	医療法人みやび樹レディースクリニック	医療法人恵会皆藤病院
医療法人慈啓会白澤病院	医療法人秀和会山川耳鼻咽喉科医院	医療法人まゆき会菊池クリニック
医療法人社団深澤クリニック	医療法人環の会モオカ内科・腎クリニック	医療法人社団順英会アイ・こころのクリニック
医療法人桃李会御殿山クリニック	医療法人北村クリニック	医療法人昌慶会おおくぼみはなのクリニック
小林内科外科医院	阿部内科	医療法人慈誠会橋本腎内科クリニック
医療法人新山クリニック	医療法人社団洋精会沼尾病院	医療法人ヒボクラテス竹村腎内科クリニック
とちぎメディカルセンターしもつが	那須赤十字病院	医療法人徳仁会中野病院
医療法人北斗会宇都宮東病院	おもちゃのまち内科クリニック	宇都宮協立診療所
医療法人都賀中央医院	しもつけ腎・内科クリニック	岡医院
松島眼科医院	医療法人恒友会大和田内科胃腸科	ひらいで公園腎クリニック
一般社団法人巨樹の会新上三川病院	医療法人徳真会真岡病院	二宮中央クリニック
二宮中央腎・検診クリニック	栃木県済生会宇都宮病院	中田ウィメンズ&キッズクリニック
はらクリニック	かんけクリニック	岡田皮フ科耳鼻咽喉科クリニック
佐野医師会病院	医療法人社団福田会福田記念病院	公益社団法人栃木県柔道整復師会
医療法人洋和会水沼医院	なかたクリニック	足利赤十字病院
医療法人飯野医院	栃木リウマチ科クリニック	一般社団法人巨樹の会宇都宮リハビリテーション病院
おざわ小児科医院	医療法人新島内科クリニック	医療法人恵愛会青木病院
自治医科大学附属病院	医療法人修英会中川医院	公益財団法人栃木県保健衛生事業団
医療法人井上眼科医院	医療法人翼望会長島医院	医療法人寛久会山田クリニック

●県庁各課室及び出先機関 (募金収納順)

行政改革推進室親睦会	矢板土木事務所親睦会	経済流通課親睦会	住宅課親睦会
情報システム課	林業木材産業課	地域振興課親交会	農業大学校親睦会
県立文書館	財政課	上都賀教育事務所	農業環境指導センター親睦会
県立美術館親睦会	職員厚生課親睦会	人権・青少年男女参画課	大田原県税事務所
教育委員会生涯学習課	鹿沼県税事務所親和会	森林整備課	県土整備部河川課
文書学事課	環境保全課	環境森林政策課	県南高等看護専門学校
県東環境森林事務所	栃木県東京事務所	自然環境課	大田原土木事務所親睦会
県北健康福祉センター	今市健康福祉センター親睦会	監査委員事務局親交会	税務課むつみ会
障害福祉課親睦会	総務事務センター	那須教育事務所	生産振興課
大田原東高等学校	鬼怒水道事務所	道路保全課	農政部農政課
工業振興課親交会	畜産振興課	企業局経営企画課	栃木県税事務所
広報課はるかぜ会	こども政策課	烏山健康福祉センター	板室発電管理支所親睦会
北那須水道事務所	道路整備課親睦会	県土整備部用地課	都市整備課
市町村課	企業局水道課親睦会	塩谷南那須教育事務所	医療政策課
栃木土木事務所親睦会	栃木県計量検定所	教育委員会事務局七重会	日光土木事務所親睦会
生活衛生課	交通政策課	国保医療課	教育委員会事務局施設課
産業政策課	水産試験場	企業局電気課	那須農業振興事務所
県南児童相談所	教育委員会事務局学校安全課	栃木県労働委員会むつみ会	統計課親睦会
那須広域ダム管理支所	栃木県消防学校	文化財課親睦会	監理課親睦会
経営管理部人事課	真岡土木事務所	栃木県議会事務局	矢板森林管理事務所

県北環境森林事務所
 県立日光明峰高等学校
 県北家畜保健衛生所
 農業試験場いちご研究所
 安足健康福祉センター
 保健福祉課
 教育委員会事務局高校教育課
 今市発電管理事務所
 益子特別支援学校
 県南健康福祉センター
 保健環境センター
 栃木男女共同参画センター
 岡本特別支援学校
 精神保健福祉センター
 県南技術支援センター
 南那須特別支援学校
 県立岡本台病院

人事委員会事務局親睦会
 薬務課親睦会
 栃木健康福祉センター
 県北産業技術専門校
 安足土木事務所
 中央児童相談所
 安足教育事務所
 農地整備課
 真岡県税事務所
 矢板健康福祉センター
 県土整備部建築課
 栃木県産業技術センター
 県立図書館友愛会
 烏山土木事務所親睦会
 教育委員会事務局義務教育課
 農業試験場
 県立聾学校

下水道管理事務所
 矢板県税事務所
 県西健康福祉センター
 都市計画課
 県央家畜保健衛生所
 県南産業技術専門校
 わかくさ特別支援学校
 健康増進課むつみ会
 宇都宮土木事務所
 塩谷南那須農業振興事務所
 畜産酪農研究センター
 高齢対策課親睦会
 鹿沼土木事務所
 総合スポーツゾーン整備室
 経営支援課親交会
 栃木特別支援学校
 県立中央産業技術専門校

安足県税事務所
 産業技術・繊維技術センター
 観光交流課
 芳賀農業振興事務所
 動物愛護指導センター
 宇都宮県税事務所
 下都賀農業振興事務所
 経営技術課
 経営管理部管財課
 県北児童相談所
 県西環境森林事務所
 栃木県総合教育センター
 総合政策課親睦会
 のざわ特別支援学校
 県立博物館
 上都賀農業振興事務所

●募金機関：246機関

●募金総額：1,268,293円（令和2年1月31日現在）

支援型飲料自動販売機の設置について（お願い）

当協会は、財産運用収入が年々減少し、収入確保が課題の一つとなっております。

そのため、収入増加とPR強化を目的に、平成29年度からFVジャパン㈱の御協力で、支援型飲料自動販売機の設置事業を開始いたしました。この事業は、自販機の設置者様が指定する公益団体に売上の一部（寄付額は任意）を寄付するもので、飲料購入者も間接的に公益事業を支援するものです。自販機にはチラシなどを掲示でき、オリジナルデザイン

の自販機を設置することもできるため、PR効果も期待できます。平成30年度に県内で初めて設置され、3台が稼働していますが、今年度、コカコーラボトラーズジャパン㈱も加わり、済生会宇都宮病院及び栃木県職員生活協同組合（県庁本館5階健康増進課前と衛生福祉大学の2台）に設置していただくことができました。

設置者の皆様には大変お世話になりました。

これで県内では合計6台が稼働していることとなりました。これらの自動販売機からは毎月寄付金をいただいているほか、臓器移植推進PRにも貢献しています。

この支援型飲料自動販売機の設置事業に御理解をいただき、自販機の設置をお申し込みくださいますよう、よろしくごお願い申し上げます。詳しくは当協会事務局にお問い合わせください。

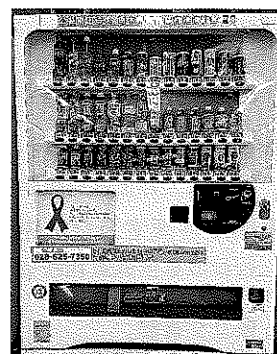
TEL 028-625-7350



済生会宇都宮病院



県庁本館5階健康増進課前



衛生福祉大学校

編集後記

- 協会だより第30号（令和元年度版）を発刊し、皆様にお届けすることになりました。これも偏に、お忙しい中御寄稿をいただきました関係者の皆様のお陰であり、心から御礼を申し上げます。
- 改正臓器移植法が施行され、この9年間で県内の病院において14件の脳死下臓器提供が行われましたが、今なお、県内においては190名を超える方々が移植を希望されている現状にあり、一層の啓発活動が必要な状況にあります。

- 今期も関係各位のお力添えにより、臓器移植普及推進街頭キャンペーンをはじめ多くの普及啓発活動を多面的に展開することが出来ました。この場をお借りして心から御礼申し上げます。
- これからも臓器移植普及推進のため、微力ながら精一杯、努めさせていただきますので、皆様のより一層の御理解、御支援と御協力を願います。（S生）